

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 30 年 12 月 4 日（火）15:30~16:30
- 場所：アクセンチュア・イノベーション・ハブ・東京（東京都港区）
- Pitch テーマ：海外スタートアップから見た、日本のエコシステムの魅力と課題
- 招へい者：別紙参照
- 出席者：平井国務大臣
石井企画官（科技）
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 招へい者からの説明

- 機械学習によるビッグデータ解析やモーションキャプチャーからの行動分析、自動運転に向けての 3D マッピング、財産管理プラットフォーム、オンラインビザ取得サービスなど、多種多様な海外スタートアップが日本に進出している。
- 日本でビジネスを始めたのは、イノベーションのポテンシャルがあると感じられたため。スタートアップエコシステムが今まさに成長中であるところも魅力である。また、海外スタートアップを招聘する事業（東京都実施、アクセンチュアに委託）も契機となっている。

3. 質疑応答・議論

以下の意見・提言があった。

- 様々なデータをビジネスに活用するために、オープンデータ化をさらに進めるための議論がもっとあってもいいのではないか。
- 日本企業にはもっとダイバーシティが必要。海外人材の活用増や雇用法制の柔軟化が必要。
- 日本のエコシステムを良いものとするためには、言語に関する障壁をなくすことや、グローバル展開に関するマインドセットを起業のタイミングから持てるようにすることが必要である。
- 日本には優秀なスタートアップや技術、人材がいるため、インバウンド・アウトバウンドを通じて世界とのつながりを作ることが重要であり、政府もそのような活動を応援してほしい。

- 規制・ルール・支援等について相談がある場合に、どこに相談すればいいかわからないことがある。ワンストップでご紹介をいただけることはありがたい。
- 海外と日本とでは、失敗に対する評価が異なっており、海外では失敗はむしろ実績となる。日本にも失敗を許容するマインドがもっと根付くとよいと思っており、そのためには教育からのアプローチが必要である。
- 新しいことに挑戦する人々に、勇気を与えるようなプラットフォームやコミュニティがあると良い。
- 日本の企業は、全てを自社内で行うことにこだわっているように見えるため、リーダーの方にオープンイノベーションの観点を持ってもらうことが重要。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)

招へい者：

[海外スタートアップ]

Eugene Yoshioka	SQREEM Technologies Japan 代表取締役
清水 健一	Motionloft Japan Country Manager
Tim S. Miksche	Artisense Chief Representative, Japan
Mark Makdad	マネーツリー株式会社 事業部長兼常務取締役・共同創業者
岡村 アルベルト	株式会社 one visa 代表取締役

[エコシステムビルダー]

David Corbin	Tech in Asia 代表取締役
Christian Schmitz	World Innovations Forum Japan AMBASSADOR